
執筆者一覧

黄 蘊

尚綱大学現代文化学部准教授。博士(人間科学)。専門は文化人類学。マレーシアとシンガポールの多元社会の問題、東南アジア島嶼部、または大陸部の上座部仏教を研究している。著書に、『東南アジアの華人教団と扶鸞信仰——徳教の展開とネットワーク化』(2011年、風響社)、『往還する親密性と公共性——東南アジアの宗教・社会組織にみるアイデンティティと生存』(編著)(2014年、京都大学学術出版会)。

福岡 まどか

大阪大学大学院人間科学研究科教授。修士(音楽)、博士(文学)。専門は民族音楽学、文化人類学、地域研究(インドネシア)。インドネシアの舞踊・演劇を中心に東南アジア芸能の研究に従事。著書は『性を超えるダンサー——ディディ・ニニ・トウォ』(2014年、めこん)、『インドネシア上演芸術の世界——伝統芸術からポピュラーカルチャーまで』(2016年、大阪大学出版会)など。

松村 智雄

大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻(2022年度より人文学研究科外国学専攻)講師。博士(学術)。研究領域は、東南アジア地域研究(主なフィールドはインドネシア)、華人研究。特にボルネオ島に関する研究、マラッカ海峡兩岸の歴史について研究している。主要業績は『インドネシア国家と西カリマンタン華人——「辺境」からのナショナリズム形成』慶應義塾大学出版会(2017年)、Matsumura Toshio(2017)“Causes of lingering communist movement after Indonesia’s September Thirtieth Movement: the case of border area between Sarawak and West Kalimantan,” *Asian Ethnicity* 19(2): 235-250、「1967年「ダヤク示威行動」におけるインドネシア西カリマンタン州ダヤク社会のポリティクス」『東南アジア 歴史と文化』第44号、45-63頁(2015年)など。

宮原 暁

大阪大学言語文化研究科・教授。博士(社会人類学)。東アジアにおいて文化的情報がどう複製、模倣、翻案、融合、二重読みされるかをエスノグラフィックに研究している。最近の論文に、「ソウルフード以前——フィリピン諸島と福建の間のディアスポリック・チャイニーズの日常的な食」『華僑華人研究』18号、113-138頁(2021年)。

舩谷 鋭

立教大学観光学部交流文化学科教授。主な専門は、観光文学研究と東南アジア、特にマレーシアなど島嶼部の華人文学研究。「サイノフォン」と呼ばれるようになったマレーシア華語系華人文学（馬華文学）を、1990年代初頭以来、作者のオーラルヒストリーから翻訳まで手がける。主な共著に『東南アジア文学への招待』（2001年、段々社）、『シンガポールを知るための65章』（2021年、明石書店）など。

山本 博之

京都大学東南アジア地域研究研究所准教授。専門は東南アジア地域研究／メディア研究。研究テーマは、マレー世界の政治文化、アジアの災害対応、混成アジア映画、地域研究方法論。著書に『脱植民地化とナショナリズム——英領北ボルネオにおける民族形成』（東京大学出版会、2006年）、編著書に『マレーシア映画の母 ヤスミン・アフマドの世界——人とその世界、継承者たち』（英明企画編集、2019年）などがある。